



JASWHS 公益社団法人 日本医療社会福祉協会
Japanese Association of Social Workers in Health Services

令和3年3月29日 第10巻（第3号）

発行：東京都新宿区住吉町8-20 四谷チンゴビル2F

災害支援チーム TEL (03)3351-5038

FAX (03)5366-1058

Mail: dsstsw@jaswhs.or.jp

もくじ

巻頭言 2021年3月11日によせて

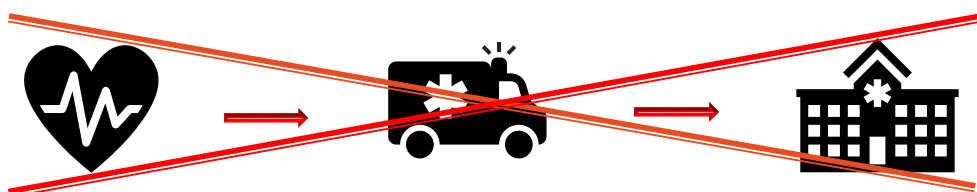
1. 1年を振り返って
2. 退職の時を迎えて
3. 10年目の報告 ～その1～
4. 災害支援チームからのお知らせ
5. 災害支援ニュース発行のお知らせ

編集後記

新型コロナウイルス感染症拡散中

徹底した予防生活で日々元気に過ごしましょう！！

（複数の強力な変異種も拡散しています。）



◇ 巻頭言

2021 年 3 月 11 日によせて

石巻事務所 現地責任者 福井 康江



◆石巻市における東日本大震災被害状況（2021 年 2 月 28 日現在、県まとめ）

直接死	関連死	行方不明	住宅全壊	住宅半壊
3,277	276	418	20,044	13,049

◆全国の現在の避難者数 41,241 人

◆震災関連死 全国 3,773 人（河北新報社による 1 月末時点の集計数）

◆関連死も含む震災による犠牲者数 22,198 人

東日本大震災により亡くなられた皆様に謹んで哀悼の意を表しますと共に、ご家族の皆様には心よりお悔やみ申し上げます。また、被災された皆様には穏やかな日々を過ごされておられることを心より祈っております。

今年の 3 月 11 日は、例年になく穏やかな日となりました。

例年通り日和山に向かう坂の途中、三十代後半くらいの男性とおそらく小学生の息子さんの二人が横を通り過ぎて行きました。二人はしっかりと足取りで一直線に前を向き坂を登って行きましたが、特に小学生の男の子の歩幅が思いがけず大きかったことがとても印象的でした。震災の時には、この坂を一人で歩くことなどできなかったであろう子供たちがこうして自分の足で坂を登って行く姿は、とても感慨深いものでした。

日和山の駐車場には意外にも県外ナンバーの車が多数止まっていたことに驚き、神社の鳥居の周りにはことのほか子ども連れのご家族や 20 歳前後の若い方々の姿が数多く見られ、この 10 年の時間の移りようが色濃く感じられる光景でした。

また、街中を移動する時におひとりの高齢の方の姿を見掛けました。その方が不自由な体ながらシルバーカーを一生懸命に引くその姿から、この日は追悼の日ではあるが、節目や区切りではなく、日常を続けるための大切な一日なのだと改めて思い知らされました。一日、一日の

つながりが今日になり、そのつながりを支えることが私たちの役目なのだと実感しました。

3月11日の河北新報の一面には、「懸命に生きる」という言葉が載せられていました。また、別の報道では、「この震災での経験を伝えることがこれからの防災や命を救う方法に生かされることになるから伝え続ける。人の命は必ず守ることはできる。」との言葉が非常に強く心に響くものでした。

1000年に一度の震災と言われて、そこらかまだ10年が経ったところですが、次の命を守るために、次ぎの時代のために、今日を懸命に生きることをこれからも共に支え合ってゆきたいと思います。



追悼行事で放たれた風船と青空



日和山から望む中瀬の風景



石巻市日和山 鹿嶋御児神社からみた石巻湾の風景

1. 1 年を振り返って

石巻事務所 現地担当 軍司智之

新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、入職してから数週間で緊急事態宣言が発令されるとは想像もしなかったことでした。

対人援助の仕事は人に直接お会いし、お話を伺うことから始まるわけですが、感染拡大を防止するためにはある程度面会での対応は制限せざるをえません。顔をあわせながらのコミュニケーションがとれないことになかなか相手との距離感がつかめないまま時間だけが過ぎていき焦りを感じました。ただでさえ入職したてで支援対象者の方々と信頼関係を築くことができているわけですからなおのこと。

このような状況で自分は何ができるだろうか。何をすべきだろうか。相手の顔が見えなくても例えば電話での対応ひとつとっても誠意をもって耳を傾けていることが伝わるように声の抑揚なり、言葉の表現なり意識してみようと奮闘していたように思います。数か月が経つころ職場支給の携帯電話へ支援対象者の方々から直接ご連絡いただくことが増え始め「ようやく少しは名前と顔を覚えてもらえるようになったかな。」と安堵したのが正直な気持ちでした。

1 年を振り返るとはいっても、私自身にとって被災し 10 年を振り返る時期でもあります。被災した直後の街並み、10 年が経過した街並みを見比べてふと「復興」とは何をもって復興といえるのだろうかと考えるときがあります。「新しく建物が建った」「記念碑が建立された」といった物理的にわかりやすいものが「復興」の象徴であるかのように取り上げられますが今一つ「復興」を実感できない自分がいます。「復興とは何か」という問いに対して 10 年が経過した今もその答えはわかりません。10 年間、答えを探し回って気づいたことは「答えは作り出すものかもしれない」ということでした。支援の場でお会いする方々と対話し、経験してきた様々な人生観に触れることで「答えは 1 つじゃない」と気づくことができました。

事実を見て、人と対話し、自分の頭で論理的に考え行動することの積み重ねが次の 5 年、10 年に活けると信じて次年度も邁進していきたいと思います。



2. 退職の時を迎えて

☆☆

地域との関りの大切さ

石巻事務所 現地担当 大垣晴香

☆☆

2020 年 4 月 1 日に石巻現地職員として入職し、1 年間勤務させていただき今年度 3 月に退職することとなりました。

勤務開始直後にコロナで緊急事態宣言となり訪問自粛。1 年たとうとしている今でも、思うようにいかない支援にもどかしさを覚えています。

この 1 年地域の中で働く中で、その地域の特徴を把握していく必要性を強く感じました。サロンなども自粛され中々近隣住民の方々と交流を持つことができなかったことがとても残念です。ただその中でも「こんな時に大変だね、頑張ってるね」と声をかけてもらうことやねぎらってもらうことがあり、言葉の温かさを感じ救われ、不安な気持ちは同じであろうにも関わらず、本来であれば支援する立場のこちらが気づけば勇気づけられていました。

1 年では学びきれなかったこと、まだ知らないことはたくさんあります。ただこの 1 年間で学んだことは、これからも生かすことができるように努めていきたいと思います。最後に初めて石巻に来た自分にいろいろと教えてくださった方々、温かい言葉をかけてくださった方々、本当にありがとうございました。



2021 年 3 月 11 日 夜の“がんばろう！石巻”の様子です。

21 時を過ぎていたにも関わらず、次々と祈りをささげる方が来られていました。

〇〇 〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

はじまりの1年

石巻事務所 現地担当 平野裕司

〇〇 〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

2020年2月に日本医療社会福祉協会の災害支援チームに入職し約1年が経過しました。そして、3月退職を迎えることとなりました。

石巻で生活し、仕事をした約1年間を振り返ると様々なことがありました。

1つ目は新型コロナウイルス感染症拡大に伴う、緊急事態宣言の発令と訪問活動の自粛でした。私にとってはこれまで経験したことのない未知の災害でした。市内からは明かりが消え（休業・営業時間の短縮等）、感染拡大防止の観点から集うこと（サロン・お茶っこ等）も禁止されました。そうした中で私たちの支援活動（ソーシャルワーク実践）をどのように展開していったらよいのか考え行動する日々が続きました。電話・手紙・ドアごしの会話…現地責任者の福井さん・軍司さん・大垣さんと必死に考え、支え合い過ごした日々でした。

2つ目は東日本大震災から10年の経過と新たな生活課題の出現でした。新型コロナウイルスの影響と相まって、生活課題はより深刻化しました。要因の1つに会うことの制限が考えられ、とりわけ高齢者は生活課題を抱えやすく、自ら課題を認識しながらも、支援を求めることができず、課題が複合化・複雑化（具体的には疾病の悪化、住環境の悪化等）していました。私が関わった人の1人に、我慢に我慢を重ね、「自分よりももっと大変な人がいる。東日本大震災・台風・コロナ。自分のことなんか言っている場合ではない…私は良いほうです。家もあるし。我慢します。まだ、大丈夫です」と話す方がいました。しかし、私たち支援者からみたらこれ以上待てる状況ではありませんでした。住環境は劣悪な状況で雨風がしのげている状態でした。どのようにしたら本人が合意し、支援に入ることができるだろう、関係機関からは「本人が大丈夫と言っているのだから、大丈夫」と言った声も聞かれました。一方、「どのようにしたらこの我慢の連鎖から解放することができるのだろうか。一緒に退去を手伝うよ」と一緒に考え・支援してくれる関係機関の人もありました。改めて関係機関との連携の難しさを感じた場面でもあり、「頑張ろう!」と思いなおした時でした。そして、本人との関わりを続ける中で「どのようにしたらよいのかわからなくなっていた」と話がありました。その後、新たな生活環境での介護サービス利用に向けた地域包括支援センター・病院等の調整、退去に向けた本人・家族の調整、関係機関との調整等の支援を連携しながら展開しました。特に退去に向けた支援について既存の制度では対応できず、上司・石巻社協地域福祉コーディネーターと頭を悩ませ、様々な社会資源をつなぎあわせた支援でした。そして、終結の時。本人より、「息子から『お母さんを助けようと色々な人が頑張ってくれたんだから、頑張って、しっかり生きてください。』と言われました。私は幸せ者です。日本医療さん・社協さんありがとう。これからは息子にも支援者（包括）の人にも甘えていながら生活していきます」との言葉が聞かれま

した。

ソーシャルワーカーの方からすると当たり前、やって当然のことだと言われるかもしれませんが。しかし、私が必死に関わり終結を迎えた支援の1つでした。そして、その中で改めて、本人が認識していない生活課題を認識してもらい、本人が合意したうえで支援を展開することの重要性。本人及び家族、関係機関との連携した（一緒にする）支援の重要性を感じた時でした。

最後になりますが、この1年間、ここに書ききれないほど多くのことを経験・学ばせていただきました。関わらせていただきました対象者・関係機関の皆様。日本医療社会福祉協会の皆様本当に世話になりました。



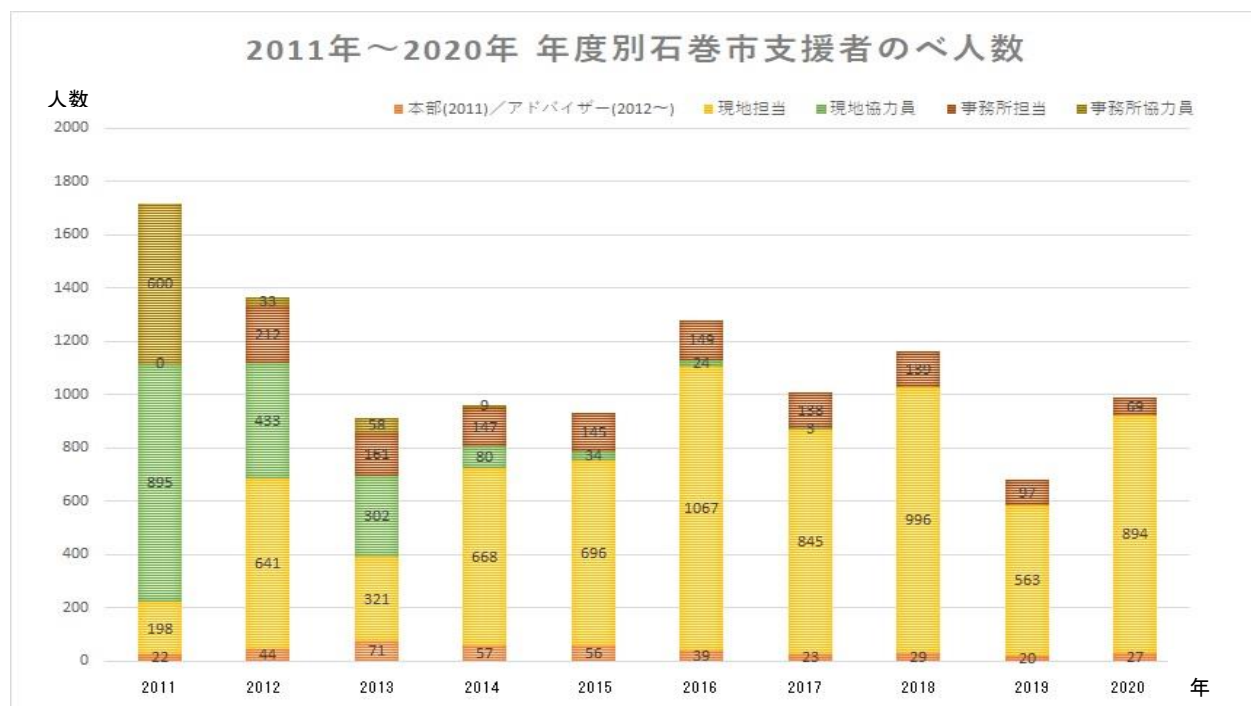
3. ☆ 10年目の報告 ～その1～ ☆

＜ 被災地での支援活動者数（のべ人数）の変化 ＞

事務担当 金子小夜子

甚大な被害をもたらした東日本大震災から 2021 年 3 月 11 日で 10 年になります。災害対策本部立ち上げ時から 2020 年 2 月までのほぼ 10 年間、石巻市を中心に現地に根差した支援活動を行ってきました。それぞれの立場での支援のべ人数をグラフにまとめました。

当協会の支援活動がボランティア中心から現地担当者中心にシフトしてきた様子を示しています。



(全のべ人数：2021年2月現在 11,005人)

4. 災害支援チームからのお知らせ

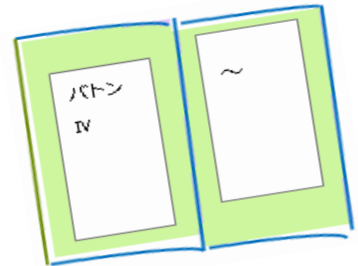
お 知 ら せ

「東日本大震災医療ソーシャルワーカーの 支援のバトン

I ～ IV が発売されています！！

詳細は、協会ホームページ

及び 下記【1. 書籍販売】をご覧ください。



【1. 書籍販売】

- 『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅠ』
- 『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅡ』
- 『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅢ』
- 『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅣ』

の販売を行っています！



発災から2011年9月30日までの石巻・仙台・大槌町・事務所・災害対策本部の活動の記録を『バトンⅠ』に、2011年10月から2012年12月までの災害対策本部、石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世帯支援・市民活動支援、現地SWとの協働の記録を『バトンⅡ』に、2013年1月から2014

年 3 月までの災害支援チーム、石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世帯支援・市民活動支援、虐待防止センターでの支援・石巻市社会福祉協議会での支援、現地 SW との協働の記録を『バトンⅢ』にまとめました。

そして新たに、この5月下旬に『バトンⅣ』を発行いたしました。

2014 年 4 月から 2016 年 3 月までの災害支援チーム、石巻市での復興公営住宅への入居支援・仮設住宅被災者自立生活支援・グループワーク支援・市民活動支援の記録です。

尚、売り上げの全額を皆様からの寄付として、本活動の資金にあてさせていただきます。

※ご注文は注文用紙で承ります。(注文用紙はホームページからダウンロードできます)

バトンⅠ:URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=45

バトンⅡ:URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=50

バトンⅢ:URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=54

バトンⅣ:URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=59

【2. facebook】



facebook でも情報をお伝えしています。現地や災害対策本部の日々の様子をお伝えしています。応援よろしく願いいたします。

URL:<http://ja-jp.facebook.com/pages/公社日本医療社会福祉協会-災害対策本部/156327867812970>

【3.YouTube】

現地での災害支援活動の様子を前事務所担当の一原さんが VTR にまとめて下さいました。YouTube にアップしましたので、是非ご覧ください。「医療ソーシャルワーカー災害支援」で検索すると見つかります。」



URL:<http://www.youtube.com/watch?v=vn34I9h5rJ4>..
[feature=youtu.be](http://www.youtube.com/watch?v=vn34I9h5rJ4)

5. 災害支援ニュース発行のお知らせ

次回発行予定 令和 3 年 6 月（暫定）

◇ 編集後記

西田知佳子

緊急事態宣言で始まった 2020 年 4 月、軍司さんと大垣さんが入職し、一足早く入職した平野さんと責任者の福井さん、4 名体制で石巻事務所はスタートしました。訪問ができず、が電話だけではちが明かず、気になる利用者さんのおうちを尋ねたいが万が一のことを考えると・・・等、石巻スタッフのその当時の気持は想像するに余りあります。東京勢が何もしないでいるわけにはいかないと、笹岡統括と福井責任者が話し合い、9 月から毎週一回 1 時間オンラインでのミーティングを始めました。その一週間にあったことのうち、気になっていること、聞いてほしいこと、話したいことを石巻スタッフが話し、東京勢は聴かせてもらってわからないこと、教えてほしいこと、感想などを口にしました。スタッフがその週に担当した利用者さんとこのような話をした、このようなことを聞かれた、などの内容が主でしたが、そのスタッフを通してその利用者さんが浮かび上がり、その利用者さんの言葉からその時のスタッフの表情が浮かんできました。スタッフ一人の持ち時間はせいぜい 10 分あるかないかでしたが、毎週のミーティングによって、石巻との距離が近くなった感じがしました。パソコン越しにでも顔を合わせて話をするということで、お互いの思いを感じ取ることができ、何よりも親近感が増しました。平野さん、大垣さんは残念ながらこの 3 月で退職ですが、お二人が新しい職場で石巻での体験を基に活躍されることを心から祈っています。そしてこれからもこのズームミーティングは続けます。日本協会石巻事務所の働きは 11 年目に入ります。

【通信欄】

当災害支援ニュースは 2011 年 5 月第 1 巻発行から 2020 年で第 10 巻を数えます。

10 年目となった 2020 年の編集担当は

西田知佳子さん、富永千晶さん、大垣晴香さん、金子小夜子 の 4 名でした。

編集者の一人、大垣晴香さんは 3 月いっぱいで退職します。

大垣さん、1 年間ありがとうございました。

イラスト選択や写真等の配置について

2015 年～2020 年の長い期間、富永千晶さんが担当しています。

11 年目を迎えた 2021 年も、季節やその時々イベントの様子が感じられる

イラスト等を掲載してくれます。

（復興してゆく石巻現地の写真の多くは石巻事務所担当者提供です）

（金子小夜子）